

平成29年度 田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体を持ち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしこく — よく考え がんばりぬく子ども
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども

【今年がんばる4つのめあて】

- めあてをもち学び合い、ふりかえろう
- いつでもどこでも笑顔であいさつしよう
- 正しい言葉づかいを身につけよう
- ルールを守り、楽しく安全に生活しよう

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。

児童の発達段階や個人差に目を向けつつ、同時に、人としての成長は、望ましい集団の中で保障され、促進されることを重視し、常に「個」と「集団」の双方の視点を持ちながら、教育目標の達成を目指して、あるべき学校教育の姿を追求し続ける。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 居がいのある学校づくり

児童・教職員・保護者・地域・ボランティア等、学校にかかわる誰もが自己存在感を実感できる学校づくりに努める。

(2) 創意ある教育課程の編成と地域とともにある学校づくり

児童・学校・地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現に努める。また、伝統ある校風を基盤に、児童と地域の実態や思いを踏まえるとともに、小中一貫教育・地域学校園や魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

(3) 生きる力と社会性を育む教育実践

確かな学力と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育成するとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図る。また、基本的な生活習慣と言語活動の充実、さらに道徳の実践的指導を推進する。

(4) 自己研鑽と組織的な学校運営の推進

教職員は情熱と使命感をもって、絶えず研修と修養に努め、共に学び合いながら、時代の要請に即応する教育の推進に努める。また、同僚性と自律性を基盤にした組織的な学校運営に努める。

(5) 学校と地域の協働による安全体制の確立

教育環境を整備するとともに、地域と協働しながら安全体制を確立し、安全・安心で潤いのある学校づくりに努める。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・地域社会との連携を図る教育活動を展開するとともに、積極的な情報の発信や学校の公開に努める。
- ・校内のさらなる情報の共有化を図ることにより、家庭や地域から「信頼される学校づくり」を推進する。

(2) 学習指導

- ・自分の考えを伝えあい、共に学び合うことのできる児童の育成に努める。
- ・児童の主体的な家庭学習の実践を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる取組を推進する。

(3) 児童生徒指導

- ・思いやりの心を育むとともに、決まりやマナーを身に付け、認め励まし合いながら生活する児童育成の取組を推進する。

(4) 健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）

- ・自分の健康状態に関心を持ち、心身と心の健康増進に努め、健康な生活を実践しようとする児童育成の取組を推進する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。 ② 集会活動・体験活動等を工夫し、児童が生き生きと活動できるよう努める。 ・縦割り班活動の充実 ・外部講師等による体験活動の充実 ・児童集会・音楽集会の充実 ③ 教育相談の機会を生かして、より良い人間関係づくりに努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.4%で、指標を上回っている。保護者 92.7%，地域住民 100%であり高い肯定的回答を得ている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・集会活動や体験活動等では、より児童が主体的に活動できるよう工夫していく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 全職員が学校経営に参画意識をもって、協力して教育に当たるように努める。 ② 児童一人一人をよく見取り、声をかけ、よく話を聞き、良いところは認め、指導すべき事はしっかり指導する。 ③ オープンスクール、授業参観等を工夫していろいろな学習の様子を公開し、学校理解を深めるよう努力する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 98.7%で、指標を十分に上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・オープンスクールや授業参観等を工夫して様々な授業や活動の場面を公開していく。 ・研究大会で培った教員間の研究・協力体制を維持していく。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」や「よい子の一日」を提示し、教職員が共通理解の下、生活指導はもちろん、学習指導や日課等でも、きまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。また、きまりの定着のため家庭との連携も図る。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は 82.3%で指標を上回っている。教職員、保護者、地域住民の肯定割合が 90～100%であるため、児童との意識に差異が見られる。 【次年度の方針】 ・児童に「田原小よい子の1日」に関する自己評価アンケートを実施し、重点項目を決め、その重点項目を常に意識して学校生活を送れるよう指導していく。 ・道徳教育を充実させ、ルールや約束を守る大切さや誠実に正直に行動するすばらしさを児童に伝えていく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 各教科で標準授業時数（文科省）を確保するとともに、「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読等を発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。 ② 一人一授業研究を行い、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。 ③ 「田原っ子の学び」を継続実践して主体的に学習する態度を育てる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.9%で、指標を十分に上回っている。保護者の肯定的回答は昨年度より 2.7%上回った。 【次年度の方針】 ・今年度から積極的に授業に取り入れてきた「思考ツール」は、学習を充実させる手立てとして有効であったため、次年度も、教職員の共通理解のもと実践を積み重ねていく。

<p>A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 年4回「いじめアンケート」を実施し結果をもとに担任が関係児童との教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。</p> <p>② 年2回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示し、個々の児童の意識を高める。</p> <p>③ 「いじめのなかよし集会」を行い、学校全体の意識を高める。</p> <p>④ いじめ根絶への取り組み及び学校で起きたいじめの件数や対応について、学校便り等を通して情報を公開し、保護者や地域の理解を深める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答が98.2%に達し、保護者の肯定割合が13.5ポイント、地域住民の肯定割合が12.2ポイント上昇した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教職員が連携して、いじめの早期発見、解決に努めていく。 ・児童会主催による「いじめゼロなかよし集会」を、オープンスクールで公開する等、さらに、学校での取り組みを具体的に発信していく。
<p>A 6 日課、授業、学校行事等の教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 小中一貫教育の趣旨を踏まえ、夏季休業中の授業実施や土曜授業、日課を工夫することで授業時数を確保する。</p> <p>② 児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れ、行事ごとに評価を実施し改善を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は92.0%で、指標を上回っている。保護者96.4%、地域住民100%であり高い割合で肯定的回答を得ている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・教育課程の適切な実施に努めていく。
<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「オープンスクール」や授業参観等を学期に2日以上実施し、学校公開を保護者だけでなく、地域に向けても積極的に行う。</p> <p>② 学校便りを毎月1回発行するとともに、ホームページを定期的に更新して、保護者や地域住民等多くの人に知らせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は97.3%で、指標を上回っている。地域住民100%であり、高い割合で肯定的回答を得ている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続・維持できるよう努めていく。 ・オープンスクール等の実施内容や方法については、より効果的な取組になるよう工夫していく。
<p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を強化し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。</p> <p>② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果についても広く情報発信する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は92.9%で、指標を上回っている。保護者96.3%、地域住民95.8%であり、高い割合で肯定的回答を得ている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続・維持していく。 ・活動の振り返りの時間を確保し、ボランティアの方にお世話になることで活動が充実していることを伝え、感謝の気持ちをもてるようにするとともに、意欲の向上につなげていく。
<p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品等が整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 毎月、施設・設備の安全点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、学習にふさわしい環境づくりに努める。</p> <p>② トイレと水道周りは、常にきれいに維持できるように、使用法の徹底を図るとともに、清掃活動において重点的に指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は94.0%で指標を上回っており、教職員、地域住民、児童も高い割合で肯定的回答を得ている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も毎月の安全点検や日常のきめ細かな目視等により、迅速に報告・修繕していく。 ・水道やトイレの使い方の他に清掃用具の正しい片付け方を徹底していく。

教育活動の状況		<p>A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 田原中の生徒とともに、挨拶運動を実施する。</p> <p>② 交流授業を実施する。</p> <p>③ 学校行事等において、中学生のボランティアを募り、児童と接する機会をつくる。</p> <p>④ 3校の教職員が協力して、小中学校において一貫した保健指導や食育等の取組を実施する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 89.5%で指標を上回っている。児童 93.4%，地域住民 90.0%であり、高い割合で肯定的回答を得ている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を継続していく。 ・活動を精選・焦点化することで、一つ一つの取組の充実を図っていく。 ・児童と生徒が直接触れ合える活動の充実を図っていく。 ・各取組に関する内容や成果について、情報を発信していく。
		<p>B1 学校は、事故防止・安全対策に努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 月1回の全校下校、毎日の学年下校、交通安全教室、不審者対応避難訓練、引き渡し訓練を実施する。</p> <p>② 家庭・地域との連絡体制（田原小安全対策連絡会による防犯パトロール・子ども110番の家・保護者、地域への情報提供）を継続し実施する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 92.2%で、指標を上回った。教職員、地域住民、児童の肯定的回答もすべて 95.0%を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を継続していく。 ・今後も月1回の全校下校、登校指導を行い、課題を全職員で共有し指導に当たっていく。 ・交通安全教室、不審者対応避難訓練、引き渡し訓練等の在り方について、全教職員で検討し、よりよい方法を探っていく。
	生活健康・体力	<p>A11 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 地域学校園で毎月第2週をあいさつ週間とし、その実施方法を工夫し、地域とも協力して基本的生活習慣の育成を図る。</p> <p>② 地域協議会と連携し、あいさつ標語を募集し、優秀作品を掲示する等して、あいさつへの関心・意欲を高める。</p> <p>③ 保護者・地域の方にも模範として児童へ積極的にあいさつの言葉をかけていただくよう依頼するとともに、PTA生活指導部が参加するあいさつ運動を実施する。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 89.4%で指標に届かなかった。保護者の肯定的回答が5ポイント上がったが71.2%と低く、地域住民の肯定割合は7割に届かなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて「会釈」を取り入れる等、学校内での地域の方々へのあいさつの仕方について、「時と場」、「相手」を具体的に示しながら指導していく。 ・今年度の児童の運営委員会や3～6学年によるあいさつ運動に加えて、PTA生活指導部の保護者の方が参加するあいさつ運動を継続していく。
		<p>A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 気持ちよい言葉づかいや返事について共通理解を図るとともに、日常的な指導を繰り返し実施し、保護者にも協力を呼びかける。</p> <p>② 職員室入室時のあいさつ訓練等を継続指導する。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 76.1%で指標を達成できなかった。保護者の肯定的回答も5ポイント上昇したものの、71.6%と低かった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を「場面」と「相手」に分け、授業中と休み時間における言葉づかいの使い分けや、校内で会った来校者への丁寧な言葉づかい等、場面ごとに具体的に指導していく。

	<p>A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は休み時間や放課後等に進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 元気っ子健康体力チェックの結果等をもとに、定期的に重点運動を決めて、児童が目当てを持って運動に取り組めるようにする。</p> <p>② 体力や技能を向上させるための取り組みを、年間を通して実施する。 ・縄跳び、水泳、鉄棒の検定カードを活用する。</p> <p>③ たわらの時間や昼休みに外遊びを奨励する。遊び塾を通して異学年交流や遊びの種類を増やす。</p> <p>④ 学校便りや学年便り、ホームページ等を通して、各種検定カードを活用して運動に取り組んでいることを発信したり、校外でも休日や放課後における屋外遊びを奨励したりする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は85.8%で、指標に届いたが、保護者の肯定的回答は約69.7%と低い結果だった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を継続していく。 ・学級、学年懇談会の際には、生活に関するアンケートや元気っ子健康体力チェックの結果等をもとに、放課後や休日にも屋外遊びをするよう家庭でも声掛けをするよう啓発したり、目当てをもって体力作りをしたりするよう奨励する。
	<p>A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 栄養職員と連携した食育に係る授業を計画的に取り入れる。</p> <p>② 給食便りを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。</p> <p>③ 家庭との連携を図り、食育の啓発に努めるとともに、「お弁当の日」の計画、実施を進める。</p> <p>④ 栄養職員とのTT授業をさらに進め、栄養や残菜への関心を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は75.7%で、指標を下回っている。保護者の肯定的回答は64.7%で昨年よりさらに6.5%低下している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養職員と連携した授業を実施し、それを保護者が参観する機会をつくることで、家庭と連携した指導を充実させていく。 ・長期休業中に養護教諭と栄養職員が連携し、好き嫌いを減らすための親子参加型講習会を開催し、食育への啓発を図っていく。
	<p>B3 児童は、自分の健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「自分は、健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 保健便りを発行し、健康な生活習慣を身につけるための情報発進をする。</p> <p>② たわらの時間や昼休み等の外遊びの後、給食後の場面で、手洗い・うがい・歯磨きを励行させる。</p> <p>③ 長期の休み以外にも、うがいカレンダーや歯磨きカレンダーを時折実施して、意識を継続させる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は94.2%で昨年度を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間等の養護教諭の校内巡視を強化し、児童に手洗い、うがい、歯磨きへの声掛けを行う。 ・長期休業等を実施する「歯磨きカレンダー」に保護者の確認欄を設けたり、学級・学年懇談会で、基本的な生活習慣に関する話をしたりすることで、家庭と連携した指導ができるようにしていく。 ・給食中や歯磨きタイム等の時間に積極的にミニ保健指導を養護教諭等が行っていく。
学 習	<p>A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に進んで話合い、分かりやすく発表する等、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業の準備を忘れず、休み時間のうちに用意する。</p> <p>② 1時間に一回発表を目標に授業に取り組ませる。</p> <p>③ 話し合い活動を積極的に取り入れる。</p> <p>④ 板書したことをきちんとノートに書き写したり、工夫してノートにまとめたりすることができるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は84.1%で、指標を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次の授業の準備をしてから休み時間」の指導を徹底するとともに、登校後の過ごし方についても全職員で共通理解を図り、児童が落ち着いて学習に取り組めるようにしていく。

本校の特色・課題等	A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞く等、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席を守らせる。 ② 授業中の姿勢や話を聞くときの態度について指導する。(合言葉で意識づけを図る。) ・姿勢の日の指導を継続する。 ・「足はぺったん・背中はピン・おなかと背中にグーひとつ」 ・「話をします」「目を見ます」	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は83.2%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・全体的に、児童は落ち着いて学習に取り組む様子が見られているため、今年度の取組を継続していく。 ・授業中の姿勢や聞く態度については、各学年の発達段階に応じて継続的に指導を行う。
	B2 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宿題や自主学習を進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 毎日宿題を出す。 ② 自主学習の内容を指導する。模範的な自主学習の内容を紹介する「自主学習のすすめだより」を発行する。 ③ 「家庭学習のすすめ」を通して家庭の理解・協力を得る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が89.8%と指標を上回った。児童、保護者とも肯定的回答が昨年度より5%ほど上がった。 【次年度の方針】 ・今年度拡充した取組の「自主学習ファイルの活用」、「学年だよりでの家庭学習の情報の提供」が効果的だったので、次年度も家庭の協力を得ながら、児童の家庭学習が習慣化されるよう努めていく。
	B4 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。 【数値指標】全体アンケート「私は、進んで読書をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 心穏やかに読む、静かな朝の読書(朝の活動)を週2回実施する。 ② ボランティアによる「読み聞かせ会」を学年・クラスごとに行うよう年間を通して計画し実施する。 ③ 親子読書を奨励する。 ④ 図書室の開館時間を増やす。 ⑤ 月毎に配付している行事予定の第三土曜日の欄に「家読の日」と入れるとともに、自主学習表に「家読」の時間と書籍名を記入する欄を設ける。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は昨年度より9.4%上がって83.1%となり、指標を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は、まだ低めではあるが、昨年度より5.3%上がった。 【次年度の方針】 ・今年度拡充した「自主学習表への『家読の日』の明記と感想の記述欄の設定」、「親子読書の実施回数の増加」等の取組の効果が表れてきたため、次年度も継続していく。 ・図書館の開館については、「始業時刻に間に合わない児童がいた」という課題が見られたため、次年度に向けて検討していく。
	B5 地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の人たちと一緒に、地域の自然や文化等について学習をして、田原の地域のが好きになった」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習等を実施し郷土愛の育成を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88.0%で指標を上回っている。保護者92.1%、地域住民91.3%であり、高い割合で肯定的回答を得ている。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していく。 ・活動を通して、人の思いや特色を感じられるように指導を工夫していく。 ・活動の振り返りの時間をより充実したものにしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・学校運営に関する質問項目については総じて指標を上回っているので、この状況を維持できるよう努めていきたい。
- 校内における情報の共有化とともに、地域学校園での目標・目的の共有化に努め、小中学校9年間を見通した教育活動を展開できるようにし、「信頼される学校づくり」を推進していきたい。
- ・家庭への情報発信を工夫して、学校におけるさまざまな教育活動への理解を深められるようにしていきたい。

【児童指導】

- 全体的にきまりやマナーを守って落ち着いて生活している様子が見受けられるが、「きまりやマナーを守っているか」という質問に対する、教師と児童の肯定割合に差異が見られることから、児童の意識の中に、守れていないきまりやマナーが存在していることが考えられる。そこで、今後は、児童に「田原小よい子の1日」について自己評価アンケートを実施し、児童自身が守れていないと考えているきまり等を把握し、重点項目を決め、指導していきたい。
- 「あいさつ」や「言葉づかい」に関する肯定割合が低いことの原因に、「時と場」を考えさせる指導が不足している現状があげられる。授業中と休み時間での名前の呼び方や話し方、廊下ですれちがった際の来校者や大人への話し掛け方やあい

さつの仕方等、具体性をもった指導を心掛けていきたい。

- ・教師、児童とも「いじめは絶対に許されない行為」という認識が、ほぼ100%になった。また、保護者や地域住民の肯定割合が昨年度に比べ、それぞれ10%以上上昇した。日ごろの教員のきめ細かな指導のもとに、ホームページ等で情報を発信したことで学校のいじめ対策への理解が図られたものと考えている。今後はさらに、いじめの未然防止に関する取組の一つである「いじめゼロなかよし集会」などをオープンスクールで公開する等、地域・保護者への理解を深めていきたい。

【健康指導】

- 地域学校園3校で実施している「たべるんじゃー」、「給食マナー月間」、「朝食メニューおすすめレシピ作り」、「お話し食」、「共通献立」等を継続し、今後も望ましい食生活に向けた啓発に努めていきたい。
 - ・学校全体が以前より安全に整とんされ、教材教具が分かりやすく置かれる等学習しやすい環境になってきている。ただ、児童数減少により、清掃が行き届かなくなることも考えられるため、今後の清掃等の在り方を検討していきたい。そのような状況でもあるため、PTA施設委員会の環境美化活動は有効であると考えている。
- ・「好き嫌いなく食べること」、「1日3回の歯みがき」、「放課後や休日の戸外遊び」等、健康指導には、家庭との連携が欠かせないことから、学級・学年懇談会や各種便りと呼びかけることに加え、「アンケート結果を家庭に知らせる」、「親子参加型の啓発活動を実施する」等して、自分自身の問題として捉えられるような工夫をしていく。

【学習指導】

- ・生活科・総合的な学習の時間の公開研究発表会に向け、授業における教師のコーディネート力の向上を目指して研究を積み重ねてきた結果、児童が協同して学び合う力がついてきた。今後も、各教科において積極的に「田原っ子の学び」を取り入れ、今年度の取組を継続実践していく。
- 全校体制で「自主学習ファイルの活用」や「年3回の『家庭学習がんばり週間』の実施」、「学年だよりによる家庭学習の啓発」等の家庭学習の推進に取り組んで3年となり、着実にその成果が表れてきたと考えている。
- 今年度から「第3土曜日を『家読の日』と家庭に呼びかけ、自主学習表に記述する欄を設けること」や「親子読書の回数を増やすこと」等、学校で読むだけでなく家庭での読書を推進してきたことで、「児童は進んで読書をしている」と考える児童や保護者が昨年度より大きく増加した。ただ、読書量には個人差が見られることから、今年度の取組を基本に、読書に親しむ機会をさらに充実させていきたい。

6 学校関係者評価

【学校運営】

- ・学校経営の理念がグランドデザイン「大いちょうプロジェクト」として示されるとともに、学校だよりや学校ホームページ等で積極的に学校の取組が発信されているので、実現に向けて努力していることが分かった。
- ・地域住民を学校教育に積極的に活用するなど、地域との連携に努め、各行事や授業の充実が図られていた。
- ・学校と地域の連携は図られているが、家庭からの協力については、もう少し広く得られるようになるとよい。

【児童指導】

- ・挨拶についてはよい状況になってきているが、まだできていない児童がいることから、学校及び家庭、地域の大人が率先して実践していく必要がある。
- ・時と場に応じた挨拶や言葉遣い、思いやりある行動等において、上級生の姿が下級生に好影響を与えている。

【健康指導】

- ・交通安全については、田原バイパスの開通に伴い、交通の状況に変化が生じているので、十分な安全指導が必要である。
- ・休み時間等の外遊びや各種健康指導の実施により、健康体力面の向上が図られている。

【学習指導】

- ・教職員は創意工夫した教材を使って自信をもって授業を行っており、児童は落ち着いて授業に臨んでいる。
- ・近年課題だった家庭学習や読書の数値が上がっているのは、継続した努力の結果だと考えられる。
- ・地域の伝統文化等について、今後も継続して学べるようにしてほしい。
- ・読書については、家庭での読書の習慣化が必要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・落ち着いた雰囲気の中で、児童が明るくのびのびと学校生活を送ることができていること、継続した取組による成果が現れてきていることから、基本的には次年度も現在の取組を継続していく。
- ・学校が地域の方からたくさんの協力を得て、児童自身が住む地域について学べていることは児童にとっても地域にとっても有意義なことであるので、今後も取組を継続・充実させていく。
- 時と場に応じたあいさつと言葉遣い、規則の尊重等については、その意義や意味を道徳教育の中で考えさせるとともに、学校・家庭・地域が連携し、大人が望ましい姿を見せていくことで児童の意識の向上を図っていく。
- 保健、給食等の健康指導については、学校栄養士や養護教諭が授業に参画したり、地域学校園で連携した健康に関する取組を実施したりすることで更なる充実を図っていく。
- ・授業等での話し合い活動、家庭学習、読書の習慣等については、教職員同士の共通理解、保護者の理解・協力を得ながら取組を実施してきたことが成果につながったと考えられるので、今後も取組を継続させていく。
- ・今後も学校と家庭、地域が目的を共有しながら連携した取組を充実させることで、児童の心身ともに健やかな成長を目指していく。